

休耕田5万タルに菜の花

5万タルの休耕田を利
用して菜の花などを栽培
し、環境に優しいバイオ
ディーゼル燃料(BDF)
を製造・供給するプロジ
ェクトが、07年からモン
ゴルで始まる。日本とモ
ンゴルの有志による「合弁
会社」が事業を実施。二酸
化炭素や大気汚染物質の
排出削減につなげ、併せ
て休耕田の有効活用や地
域の雇用拡大を図る。事
業の可能性調査を日本工
営が行っており、同社は
社会的意義の高いプロジ
ェクトとして今後も、日
本国内での広報活動や資
金調達、プラント整備な
どを積極的に支援する方
針だ。

モンゴルでは、ディー
ゼル燃料はすべて輸入。
一方、社会主義体制が崩
壊してからは、100万
タルの小麦畑が休耕田に
なっているという。首都
ウランバートルでは大気
汚染が深刻化し、政府も
環境問題に高い関心を払
っている。

スタートするのは「菜
の花」モンゴルプロジェクト
だ。これほど大規模に
菜の花を栽培してBDF
を製造・供給する例はな
いという。

合弁会社が同国北部の

モンゴルでバイオ燃料製造へ

ユロー村で2191タルの
借地権を取得、07年から
菜の花栽培を始める。菜
の花だけを栽培し続ける
と地力を保持できないた
め、大豆やレンズ豆、ヒマ
ワリなどと輪作するが、
発生が少ない。

BDFは植物油を化学
変換させたディーゼルオ
イルの代替燃料で、二酸
化炭素や大気汚染物質の
発生が少ない。

日本工営が支援

3年後には同村で合わせ
て1万タルまで栽培面積を
拡大する計画だ。さらに
オルホントウルやドル
ノッド地区でも栽培を開
始し、12年には5万タルま
で広げる。

プロジェクトでは、裁
培面積1タル当たり0.5
タルのBDF製造を自指
す。販売網が整備される
までは、多くの機械を使
用する炭鉱会社に販売。
製造過程で発生する搾油
かすも飼料として販売す
る。

日本で資金調達やPR

国内でプロジェクトの社
会的意義を広報し、資金
調達を支援する動きが必
要となり、日本工営は得
意とするプラント整備を
含め、プロジェクトへの
支援・協力を惜しまない
考えだ。

同社は、98年にモンゴ
ル村落部の発電施設の改
修計画調査を実施。
調査を担当し、現地を
訪れたコンサルタント海
外事業本部の福地智恭新
エネルギー室長がこれま
で個人的に「菜の花プロ
ジェクト」にかかわって
きた。合弁会社にも個人
で出資し、「手弁当で活
動してきたが、プロジ
ェクトの意義を会社が認
め、サポートしてくれる
ことになった」(福地氏)
という。

国内で資金調達が始ま
る。資金調達のための有
限責任事業組合も日本に
設立済みで、順調にいけ
ば3月からBDFプラント
や倉庫、排水施設、宿
舎などの設計・機材調達・
建設が始まる見通しだ。

国内でプロジェクトの社
会的意義を広報し、資金
調達を支援する動きが必
要となり、日本工営は得
意とするプラント整備を
含め、プロジェクトへの
支援・協力を惜しまない
考えだ。